

第11回交流学習センター施設検討委員会 会議概要

- 1 審議会名.....第11回交流学習センター施設検討委員会.....
- 2 日 時.....平成18年7月28日 午後6時30分～午後9時20分.....
- 3 会 場.....穂高会館第2会議室.....
- 4 出席者.....益子委員長、草深副委員長、丸山委員、中島委員、細野委員、松尾委員、中田委員、山田委員、藤原委員、巻山委員、中嶋委員、細萱委員、小口委員、赤沼委員、曾根原委員、三枝委員、松田委員、細川委員（まちづくり推進課長）、松枝委員（社会教育課長）.....
- 5 市側出席者.....望月教育長、小林教育次長、曾根原文化振興係長、財津文化振興係主査、丸山豊科教育課生涯学習係長、下里穂高教育課生涯学習係主査、那須野三郷教育課生涯学習係長、高橋堀金教育課生涯学習係長、小穴児童保育課児童係長.....
- 6 会議概要作成年月日.....平成18年8月7日.....

1. 会議の概要

- ① 穂高交流学習センターに複合的に整備する機能について
- ② その他

2. 協議

・事務局の方に安曇野市ゆかりの人物の資料を揃えて頂くようお願いをした。その説明を事務局の方から説明を。

- ・安曇野市ゆかりの人物説明
- ・公文書館法説明
- ・三郷村誌資料説明
- ・清沢清志資料説明

いくつも出してしまったが、私共の考えていることを知って頂き、ご検討頂けたらと思う。

・安曇野市というのはどういうものなのか、市民としてしっかりわかる施設にするのが大切なこと。図書の面において文書資料でもって知らせることが今まで話し合われている。文書だけでなく安曇野の関係のもの、大事なものをすぐに見てわかるような形にしていく。基本的な研究資料だけでなく展示にわかりやすくするプロセスが必要。映画、ジオラマ、人形、今は展示機能が発達している。そういう形で安曇野を知ってもらい、安曇野はこういうものだということがここにくればわかるという施設が今求められているのではないかと思う。人物の問題が出てきているが、総合的というのも賛成。でも百何名も展示するのは無理。他の視点から見ると顕彰する人物をどうやって知らせるかということもある。リストとして持っていることは大事だが全てを展示するのは無理。藤森桂谷もここにあるが豊科の郷土博物館で常設展示をやっているようだ。そういうことを考えるとこれを中央へもってくる必要は無いと思う。各5旧町村で既にある文化施設の中で拡充してやった方がいい人物もいると思う。うちはらえつじろうは義民館に像もある。この分け方が大事。穂高は中央図書館でもあり中央博物館でもある。安曇野の場合は全国的な評価をされている人物もある。碌山のようにしたい。リストの人物を絞り込んで欲しい。

・三郷の文書を今後見るのは一部の研究者だと思う。保管の仕方も疑問。顕彰施設についても、リストに100人位載っているが、市民の誰もが名前と業績を知っている人は数人ではないか。わからない人を顕彰する意識は持てない。顕彰的な施設を作るよりも、勉強する機会を作って頂きたい。今回の学習館について、市に合併してすぐ作らないといけないうのかわからない。図書館に余裕をもたせておくのは良いことだと思うが。この議題がここで突然持ち上がっていることに驚いている。

・再三申し上げてきたが、穂高の中でも、心ある、わかっている人達の中では早くからわかっていたのですが、段々中央でも知られるようになってきた、例えば礪山ですとか。顕彰会も穂高で出来ました。すぐそこに銅像が出来て序幕もしている。大事な人物なので、研究だけでなく顕彰して大勢の人たちに見てもらいたいと、顕彰施設の問題が出てきて、もう長い時間がかかっている。本来なら博物館という形で出来る段階もあったのだが諸処のこと情によりできなかった。そのことは文化的な価値が下がったのではなく、展示室が出来ておかしくはなかった。難しいことかもしれないが、礪山のような例もある。これは生涯学習にもつながっていく。三郷は義民館があるし、豊科、明科は宮下太吉の展示室もあるし、穂高の場合は松沢求策はせいぜい図書室の隅にコーナーがある位で。なんとかしないとこうやってきた。その辺りの価値というか、皆でももって了解した中でどうするかという協議になればよい。ただご理解頂きたいのは、本来もっと早くできていなければいけないことが、穂高だけ遅れている。しかも中身は、安曇野全体、全国に関わる人物であるということ。安曇野大紀行の中で人物をまとめて書いた。全国の自由と平和の歴史に大きく貢献した人物ですので読んで頂きたいと思います。

文書館については、資料の中で県の県立歴史館、松本文書館があるが、これは両方とも、県史、松本市史を作った時に集まった資料をそのままにしてはいけないと作ったのが文書館。その時関わった人達が管理をしながら展示もやりながら発展させている。先程の三郷以外の所でも町史、村史を作っていてそれぞれ資料は全部ある。今あるものをどうするかという問題がある。またいわゆる役場の文書は全部残してある訳だが合併の時に散出してしまう。全国的にもこういうのはいけない、保管していこうと、文書館というのはすう勢になっている。合併によりどう保存していけばいいのかは大きな課題である。個人的には、各支所の中に置いて保存して中央が管理するのがよいと思う。いずれにしても、これを保存していくのは安曇野市になった以上必要なこと。

先程の清沢清志さんの問題だが、市がどういう風に考えているか、はっきりしないから大事な文化財が松本大学にとられてしまったと思う。まず、大事な文書、資料、文化財的なものについては、市が大切に保管するということを明確にして欲しい。

・顕彰館であります。ただ、疑問に思うのは、先人の業績が、土地・風土に即しているというはある、現実、田淵記念館に関してはしっかりした施設がある。これから作ろうとするものはできるだけ一カ所に集めるというのはいいと思うが、その地に根付いているものはどうなのか。

・私は顕彰館に反対という立場で申している訳ではない。安曇野市全体を見渡した時、穂高に行けば全て歴史的なものはかなりのものがわかるという形の中に顕彰館が息づいていくなればそれもひとつの道だと思う。各地域、全体のバランスの中で本当にこの位置付けをどう考えていくかというのをもっと大事に考えていかないといけないと思う。

・顕彰館についてだが、今まで、美術館もそうだったが、どうやって知らせていくかということで、豊科近代美術館は学芸員の方がしっかりしていて企画展などしてとても努力していると私は認識している。地域学習館、古い方々の顕彰というのを考えていく場合に、いろいろな方がいる。それなりの専門家のチームが出来ていたり、財団ができて地域の中で活動がされているならばこういうものを作るのは素晴らしいと思うが、今自治体は赤字で様々な問題で自治体自身がそれだけのことをやっていけるか、全面的にお金をかけていくという方針を持っているのか、地域の中で盛り上がりがどの位あるのか、そういうのはかなり大切な問題ではないかと私は考えている。

・私は明科に引っ越してきて8年目だが、不勉強でこのリストの方々はまだ知らなかったが、倉科多策という方が私財を投じて養鱒場を作ったから今の明科のニジマスがあるんだなあと、すごい人がいたんだと思った。これからはそういう展示があれば、知りたい、見に行きたいと率直に思う。顕彰館というとかたいイメージがあるが、功績のあった方々のことを展示する施設は必要だと思う。文書館については、夫が三郷村誌の民俗編の調査にあたっていて、調査には本当に膨大な時間がかかっていると思う。そうやって調べられたものが残されるのは必要だと思うし大学生や研究する方々が手にとる機会はあると思う。きちんと整理して、図書館の中で整理していく場所は絶対に必要だと思う。

・私も安曇野で10年しかなくて、リストの名前も誰も知らなくて、社長さんになったからだから何？と思

っていて顕彰施設には否定的だったが、今のお話で、無名の人を発掘していくのも大事だと思った。今日は考えが変わってきた。ただ、この中では納まらないように思う。これを穂高交流学习センターの中に付属として作ってしまっているのかなと思う。ちょっと知るという意味ではあっていいと思うが、一応中央図書館という性質に重きを置いてもらわないと、今の協議だと顕彰館の方が膨らんで、ついでに図書館があるようなイメージになっていて、どうなっちゃうんだろうというのが正直な意見。

・中島先生のお話を聞いて、心配に思うのは、ただ単に博物館がもう一個建ってしまうのだったら困るなど。展示をメインにしてしまうとまさに博物館になってしまって、それを見れば価値がわかるのかということ決してそうではないと思う。その人達がこういうことをしました・作りましたと見るだけではなく、何を残してきたか、その人がどう生きてきたかということを私達が知ることによって、これから生きる人達が自分達の生き方をこれから考えていくいい材料だと思う。その為に、資料を整理して、その方を勉強したい時にできるという所は必要だと思う。ただ、展示スペースは沢山なくていいと思う。NHKのプロフェッショナルという番組がありますが、一人の人を、どういう仕ことをしているか、一人一人を丁寧に掘り下げている。一人一人を企画展等を通して丁寧に説明したり展示したり発表したりする場を作るのがよいと思う。今までの人形ショーやスライドではない展示がこれから求められるもので、その人を本当に理解し、本当の価値がわかるのではないかなと思う。スタイルをどんどん変えていっていいと思う。

・顕彰機能の複合施設について、文書等資料主体で、さらにはそれを展示するだけでなく、ネットワークや、或いは訪れてみえた方に説明ができる、それによって始めて資料が生きて、市民の勉強の場になる施設が欲しいような意見も出ている。顕彰機能については概ね皆さん方の賛成を頂いている。

【5分間の休憩】

・顕彰館につきましては、決して粗末にできないものであると思っていることに変わりはない。で、方向的な面で、並べとてか展示とかでなく、安曇野市の歴史や過去を捉えていく時に、ひとつの穂高の所でひとつの拠点になることもあっていい。決してそのえらい全部かき集めて並べるのではなく、それぞれの地域で生かせるものは生かしていく、今後なおかつ作っていきたくいくつか列挙されたものが新規で使われるものもあればあってもいい。今言った文書、目先、中央へ集まってい。今言ったネットワークをしっかり作る。みえた方、観光客など安曇野市のイメージがはっきりするそんな拠点になっていけばいいのかなと捉えている。

・今の顕彰の施設ということ、私は基本的には大事なことで捉え賛成。このことで感じるのは、安曇野市になったんだから、ということ、安曇野がどのように成り立って来たのかということ、ここにあげられたのは人物ですが、安曇野が今までに育ってきた中で、どんな人達がどんな役割を果たしたから今の安曇野があるんだということ。いろんなことで感じる。これは是非残しておいて欲しい。ただ、これは全部の人に押しつけても。顕彰の所も、興味の無い人には仕方ないでしょうが、子供達にも知ってもらう為にも必要だと思う。収蔵庫、いろんな文章が保存されていくのも大事なことでと思う。いい形で残して頂ければと思う。

・顕彰施設については、私は非常に問題が多い施設であろうと思う。顕彰される人達が、どんな基準に基づいて誰が選ぶのかという問題が出てくると思う。思想信条の違い、好き嫌いが非常に難しい。そういう施設を作ることに反対ではないが、なるべく顕彰的な言葉はやめて欲しいと思う。先程からいろんな人の名前が出ているが、それは個人の思いだけであって市民共通の思いや認識には至っていない。だから勉強をする機会を設けて、市民共通の思いにまで高めて欲しいと思う。その後で顕彰的なものを作っても遅くはないと思う。

こういう施設はもう作るという前提の元に話しがされているような気がするが。今までもそうだったが、私もこういう施設が欲しいと最初に提案したが、少々説明を頂いただけで、その後は協議の場にのりこともなく市の方からどんどんこういう施設について検討しろと、できればそういう施設を作れという方向ですよ。これは検討委員会の主旨にそぐわないような気がする。市民がどういうものを欲しがっているのが基礎ではないかと。どうでしょうか、皆さん。

・ただ今疑問を呈された所の施設の計画ですが、小口さんから頂いた貴重なご意見も事務局で十分参考にさせて頂いているのは間違いないことは御了承頂きたいと思う。尚、またご意見があればとりあげていきたい

と思うので。

・ほんとうに、誰をどうするかというのはこの中では決めにくい問題だと思う。その問題は事務局と専門家の会合に委託すると。ただ、今安曇野を紹介する場が無いという。そういうものを何とかここで作っていくという。ネットを作りながら求心力を持たせて市を活性化させていく、重要な文化財については収集して保管していく、その辺りのことについて、この場の中で同意してもらうことはできないか。

・顕彰は専門のチームに委ねる、ということについて賛成して頂ける方。他の意見がある方はお願いします。

・すみません、もう顕彰館は入るという前提に、なんですか？

・顕彰という言葉を使わないで、歴史を残していくと。

・機能、とすると抽象的な意味合いがあって、ネットワークとか、物理的にスペースが無くてもできる内容だと思う。で、今話題になっているのは、穂高の学習施設の中に顕彰するスペースを、具体的に機能を持たせるというのは、パソコンの前に人が座っているのが機能なのか。

・ここではできない問題。今の状況では、展示機能はかなり進んでいる。単なる古文書だけを出してもわからないが、それをどういう風に出したら庶民的に理解してもらえるかというのは、大事。そのことも展示の専門家に任せないとできない。ここでは話し合えない。そのことも任せるしかない。

・今機能の問題を議論しているが、具体的なアイデアを提供したい。穂高でこれを検討した時も、顕彰館にはなかなか足を運んでももらえないだろうということで、図書館に足を向けた方が気軽に寄ってくれるように、エントランスから誘導していく仕掛けもプランの中に考えた。正面に郷土室を設け、郷土に関係する書籍を並べ真っ先にそこに目に触れると、そこから顕彰の方に向かう人、図書室の方に向かう人、馴染みが良くなっていくような雰囲気計画を立ててきた。問題になっている顕彰の人物がどうのということだが、とりあえずここは中央ですので、図書をタッチパネルで検索するような施設にしておけば、小さなスペースで安曇野市全部の情報を知ることができるし、さらに詳しく知りたい方は各地域で勉強を深めていくことをここでやればいい。そんなに大きなスペースでなくていい。展示の方法ですが、全員の展示をするのは不可能、期間を区切りの絞って紹介することが必要。そういうような形でもってやればいい。さらに、資料を借りて学習するというような施設を備えていかなければならない。小学校の課外授業に場所を提供するとか。

・賛成・反対の意見ではないのですが、県内には地域の出身者大勢を一括して顕彰しようという施設は他にあるんでしょうか。それから、もし顕彰という部分を表に出すと、行政・法律上問題が出てくると思う。公共の団体が個人を顕彰するという行為自体多少問題がある気がする。なるべく顕彰色を出さない方向、歴史の中で、という程度にした方が無難であろうと思う。それと顕彰館としてひとつの建物として作ると特例償の対象にならないと思うが。

・おっしゃる通り、顕彰という言葉は非常に学問的な言葉であって、穂高では顕彰と使っていたがこれが正式な名称になるとは思わなかった。ただ、顕彰運動という具体的な形で、松沢求策顕彰会があり、清沢洌顕彰会があり、相馬愛蔵についても、これは町が中心になり展覧会をやった。資料的な形で具体的にやっている訳です。それを集約して発展させるのに、場所が無い為にできなかった。言葉にこだわることはないが、義民館は顕彰運動のひとつ、成果であることは間違いない。それが法的にどうだという、問題があるとは思わない。

・研究と展示、収蔵というのは大事。これはひとつ押さえる必要があるのではないかな。

顕彰という名前にこだわらない、歴史を残す機能、知る、勉強する、といった歴史館というのでいいかなと思うが。

・やはり顕彰という言葉は慎重に考えるべきかもしれない。ゆかりのある、影響のある、という方向でいけばいいと思う。

・歴史を残す、学習するという方向で決めて頂ければと思うが。

・大変貴重な埋蔵文化財が沢山あるのにそのことについて地域の人達が知識を持っていないのはおかしいと思うので、その辺の歴史の具合も組み入れて頂いたらいいかなと思う。

・子供達もわかりやすく学べる場所を作って頂きたい。

・安曇野市でこれから出来る施設は全ての人に使えるユニバーサルデザインでお願いをしたいと思う。

・何回も地域学習館という名前を言って失礼だが、事務局が提案しているのは残すべき歴史を整備しておく施設だけではない、産業、自然、全ての資料を整える。その中で一番ウエイトが多いのは歴史だと思うが。ということは是非ご確認・位置付け頂きたいと思う。

・今までの皆さんの議論を聞いていると、はっきり文書館と敢えて言う必要ないと思う。どちらかという図書館機能の延長として文書を収蔵保管できるという機能で括って頂いたような気がする。その時に学習というのは是非付けて頂きたい。地域学習、地域史という言葉は私共も考えたが、しかし歴史ばかりではないだろうと。そんなことで地域学習館、もっといい名前もあると思うのですが。是非その辺はまとめて頂きたいと思うが。

・「地域」という言葉は紛らわしいと思う。旧5町村も地域だし安曇野市というのも地域だと思う。ここでは安曇野市学習館ということではどうか。

・名称のアイデアですが、地域を「ふるさと」に変えたらどうか。

・名前につきましては、もう少し皆さんで練って頂きたいと思うが、以上の施設ということで方向をつけさせて頂きたいと思うが、挙手をお願いしたい。

・顕彰機能を付けた、というのは、具体的には旧穂高町の方で出た形の提案の部屋みたいなものを作って、顕彰機能がある所というのでやるか？それを学習機能館と名前だけ変える訳か？

・具体的な形としては、顕彰機能が地域学習館と名前が変わってお部屋が加工されると理解すればいいか？

・別の委員会を作って顕彰する人物を選ぶにあたっても、まず顕彰するかどうかということを含めて話し合いがあるべきだと思う。そういう部屋というのは当然ある訳ですから、とりあえず勉強に使っていて、それで顕彰しようという話になれば、簡単な顕彰をする場所にしても構わないと思う。固定的でなく、もっと流動的に考えていい気がする。時代が流れれば人の考え方も変わってくるだろうし。部屋も余裕がある部屋もあるでしょう、ということで。

・いろんなことに使える、柔軟に対応していったいいかなということですが、この方向付けでよろしいか？

【全員挙手】

・すみません、前回最後に豊科美術館のどっちに出っ張るかというなんかこっちへ出っ張るとかあっちへ出っ張るとかっていう話で次回に提案というのはまだそこは。

・建築基準法上の問題、既存建物の問題、専門的な審議をする場合に出てくる請負業者の問題等、もう少しお時間を頂きたい。

・次回は、11日6時30分から。場所をご通知申し上げます。ありがとうございました。